

1 日時及び会場

令和4年2月15日（火） 午後7時30分から午後8時30分
春日部地方庁舎 101会議室

2 出席者

- ・協議会委員（別紙名簿のとおり）
委員総数30名 出席30名（代理出席2名）
- ・地域医療構想アドバイザー 宮山 徳司 氏
- ・事務局
保健医療政策課、春日部保健所
- ・傍聴者
3人

3 議事

- (1) 「地域医療構想調整会議」及び「地域保健医療協議会」の要綱・構成委員について保健医療政策課からの概要説明後、春日部保健所から資料1-1及び資料1-2に基づき、説明が行われた。

【主な質問・意見等】

2つの会議体に分かれるとのことだが、具体的には、何が異なるのか？地域保健医療協議会には病院が入っていないことが気になるが。

→ 地域医療構想調整会議は、実際に医療に従事している方々により、基準病床数の見直しに伴う病床整備計画の公募や外来機能について等、地域医療構想関係の議論を集中的に行っていただくことを想定している。

一方、地域保健医療協議会では、保健医療計画全般について広くご議論いただく場としたい。

- (2) 非稼働病棟を有する医療機関への対応について

資料2に基づき、保健医療政策課から説明が行われた。令和3年度の病床機能報告データが使用できるようになると思われる8～9月頃に対象医療機関が判明することになる。

【主な質問・意見等】

- ・特になし。

(3) 圏域別フェイスシートについて

資料 3-1、3-2 に基づき、春日部保健所から説明が行われた。

【主な質問・意見等】

・ 東部圏域は非常に大きい。特に南北に長いので、人口増減も各市、町で異なると思われるが、フェイスシートは、圏域全体の視点のものである。人口動態は、地域医療構想において重要な指標となる。各市、町ごとの人口動態データを用いて、きめ細かく見る必要があるのではないかと？

→ フェイスシート自体は、圏域全体のものであるが、各市町の動向も参考データとして前回の協議会開催の際に配布させていただいている。併せて御覧いただき、御検討いただきたい。

(4) 埼玉県地域保健医療計画の中間見直しについて

資料 4 に基づき、保健医療政策課から県民コメント結果報告が行われた。

【主な質問・意見等】

・ 特になし。

(5) 埼玉県地域保健医療計画 東部保健医療圏 圏域別取組の中間見直しについて

資料 5-1 及び資料 5-2 に基づき、春日部保健所から説明が行われた。

【主な質問・意見等】

・ 特になし。

【アドバイザーのコメント】

今後の医療の方向性は、出生数がポイントになる。2040年には、医療従事者不足がさらに顕著になり、医師、看護師の確保が最重要課題であると掲げられている。進学希望者への奨学金貸与だけでなく、そもそも進学希望者を増やす手立ても必要である。中学生、高校生が医療系に進むことへの魅力を伝えることが重要。医療、看護体験等の体験学習の機会を設けるといった取組を考えていくことも必要と考える。

圏域が目指す姿について、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）をテーマとした講演会等、住民の自己決定支援に積極的に取り組むという点は、的確かつ先進的であると受け止めている。

地域保健医療計画のヘルス部門に中間見直しで「高齢者への健康づくり」が追加されているが、高齢者の健康づくりで重要なのは、若年期、壮年期からの習慣づけである。そのために、実施主体には企業、関係団体としては、商工会議所等を加えることを検討されては如何かと考える。